

生活介護事業所 奏楽

令和2年度 事業報告書

《令和2年度の経過と評価》

開所から6年が経過した。当初から、一貫して、『みんなで笑顔あふれる職場をつくろう！』をテーマに掲げてきた。利用者一人ひとりが、よりよく生きること、(生きがい・達成感)、QOL(生活の質)を高めることを目指し、そのための手段として日中活動種目(生産活動・余暇活動)を設定している。生産活動では、一人ひとりの能力に応じて作業の細分化に努めた。具体的には、数を数えるための治具、手順書の作成などを行い、やりがいや能力の向上に務めた。また新たな可能性の追求や、ステップアップを目的として、ジョブローテーションを実施した。しかし、一部の利用者に対しての実施にとどまり多くの利用者にチャレンジの機会を設定することはできなかった。

ワンランク上の支援を目指すために日々の振り返りを通して、良かったこと、課題を時間を置かずに共有するように努めた。毎月の班会議、支援会議、また職員会議等を通して、『皆が笑顔でキラキラと輝く』ためにはどのような支援をする必要があるかを考える機会を設けた。しかし、コロナ渦もあり会議等の時間短縮を余儀なくされ、深堀が不十分だった点は否めない。昨年度初めて取り組んだ第三者評価については、指摘された弱みの改善は不十分であった。

事業運営については年度途中に1名、年度末には新卒の新規利用契約者3名が加わり契約者数が30名となった。定員としては充足することが出来たが、今後は利用率を上げるための工夫が求められる。

組織作りに関して、中・長期的視点で人材育成をすすめた。法人主導のもと、事業所と連携・協力して『人材育成を目的とした人事評価制度の取り組み』を開始することが出来た。また、入職3年目までの職員を対象にしたOJTサポート研修を実施し、支援体制づくりを進めることが出来た。若手職員に対しては、毎夕、日々の働き方(業務の進め方、段取り等)についての確認、アドバイスを行った。また、月2回の管理者会議の実施により、事業所間の連携・協力体制が出来てきたが、事業運営に関して、踏み込んでいく必要を感じた。

地域との関りについては、コロナ渦もあり年度当初の計画から大幅に変更を余儀なくされ、ほぼ実施することが出来なかった。次年度は、コロナ渦を前提とした地域とのかかわりを模索していく必要がある。

【喫茶班(Café奏)】は、コロナ渦の影響により予定していた定期イベントはすべて中止となり、減収は否めない状況であったが、検温、消毒、時短、席数を減らすなど、お客さんと利用者を守るための感染対策を徹底しながら店舗の営業継続を行った。LINE公式アカウントやブログに加えて、Instagramも年度途中から開始し、店舗の宣伝のみならず、利用者の活動状況も発信し障害理解のための情報発信にも努めた。新商品については季節のドリンク(6種)を考案、商品化を行い好評を得ることが出来た。また、テイクアウト商品の開発やテラス席の設置等、コロナ渦でも安心して来店できる店作りを心掛けた。課題であった利用者にはわかりやすいオペレーションについても、写真やホ

ホワイトボードに加えて、計量のための治具の作成など工夫が見られた。しかし、ミスも多く作業の細分化など、利用者一人ひとりの能力に合わせたオペレーションの工夫が求められる。

【焼き菓子班（OYATU 工房という）】は、コロナ渦の影響によりイベントがすべて中止となり販売先に苦慮したが、季節の商品（さつまいもシフォンケーキ、ブルーベリーベーグル、カボチャベーグル等）を開発し、定期的な予約販売に力を入れた。購入しやすい価格設定もあり個人での大量注文も多くなってきている。また、売り上げ増のためにワンランク上の商品づくりとして楽²班で育てた自然栽培の野菜を練り込み、国産小麦の使用など厳選素材を使用したクッキーの販売も開始した。また障害の重い利用者でも関わることが出来るカリッとクッキーを開発し、お客様からも好評を得ている。また、店舗メニューにて好評を得ている手作り味噌の販売も開始した。味噌づくりは手間がかかるが、工程を細分化することにより多くの利用者に関わることが出来るため良い仕事となっている。イベントの中止により、販売に参加する機会が激減したのは残念であったが、代替えとして農作業や、体力づくり、環境整備の強化など今まで出来なかった体験をすることが出来た。

【軽作業班（楽²）】では農作業（自然栽培）を軸とした組立てを行い、全国的な組織である自然栽培パーティーに参加している。コロナ渦の功名として、WEBによる勉強会ほぼ毎週おこなったことにより、作物の栽培、販売方法、利用者の仕事づくりなどの情報交換が頻繁に行え、職員の知識の向上やモチベーションアップ、事業の拡大に貢献できた。新型コロナウイルスの影響で既存の販売先が減少してしましたが、新規開拓を行い主力商品のブルーベリーや、干し芋は完売することが出来た。サツマイモの植え付け量は昨年と同じ1500本であったが、天候不良もあり、収量が減少してしまった。干し芋の作業については、ハウスを改良して作業場を拡大し、工程を見直すことで多くの利用者に関われるようになった。品質も向上し、お客様やこだわりの店からも高い評価を得ることが出来た。委託作業については、野菜の軽量、袋詰め等、パクチー以外にも種類が増え難易度も高いが、役割分担、治具の工夫を行い少しずつではあるが上達してきている。箱折の作業については、新型コロナウイルスの影響で初夏には取引中止となったが、作業の組み立てがかえってシンプルになり、時間に追われることが少なくなった。その分、体力づくりや、体操など健康面を意識した活動も行うことが出来た。夏場の熱中症対策のため、短時間での作業設定、充電式の大形扇風機、首掛け扇風機、保冷剤、経口補水液などを用いて安心して生産活動ができる環境を整えた。自然栽培パーティーの活動の一環として、農業を頑張っている利用者2名に対して農福師として表彰を行い、やりがいや意欲の向上に努めた。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

月2回の経営会議、管理者会議を通して法人内の連携を進めることができた。また、中長期計画に沿って法人内の他事業所と連携し、人事評価制度のテストランを行うなど本格実施への礎が出来た。多機能型事業所童里夢とは、同じ日中活動事業所として送迎等で協力する場面も多く、協力体制は整えられている。職員体制については、年度初めに以前在職していた職員が加わり安定した体制を作ることが出来てきた。しかし、楽々班については、他事業所との兼務職員や、時短職員が多く日によって、手厚いときと薄いときの差がみられるのが課題である。

利用者数は年度途中に1名、年度末に、3名増えて30名となり、定員数を満たすことが出来た。今後は利用率の向上やよりたくさんの方の加算が取れるような体制作りを進めたい。

2. 利用者サービスの拡充

法人理念のもと、『どんなに重い障害をもっていても、立派な生産者と認めあえる』ように障害特性に配慮しながら生産活動を中心とした事業運営に努めた。

生産活動では、重い障害を持った方でも自信をもって関わられるように作業工程を細分化する取り組みを進めた。しかし、なかなかうまくいかず試行錯誤の繰り返しが多いが、あきらめずに工夫していきたい。コロナ渦の影響もあり、生産活動の収益が減少し工賃の減額も危ぶまれたが、月額7,700円（一律支給：日給350円）の工賃を維持することが出来た。お互いを認めあう活動として、毎日の帰りの会の際に『いいねタイム』をもち、利用者の良かった言動を互いに褒め合う時間を作り定着化してきている。また、『いいねの木』を作成、食堂に掲示し、『いいねの見える化』を行った。クラブ活動（絵画、カラオケ、書道、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）についてはコロナウイルスの感染状況に留意し、休止と再開を繰り返しながらの設定を行った。カラオケクラブに関しては、飛沫感染のリスクが高いため全面休止となった。クラブ活動休止中は代替えとして、小グループでのレクリエーションの設定を行った。日帰り旅行については、コロナウイルス感染が落ち着いている時期に変更し小グループで実施した。法人全体の忘年会については、毎年の楽しみであるがコロナ渦により、『大勢で集まる忘年会』は難しいということで開催は危ぶまれたが、職員のアイデアにより、オンラインにて開催することが出来た。いずれも『いつも』と形は違い戸惑いも多少見られたが、利用者の満足度は高かった。次年度も、コロナウイルス対策に留意しながら新たな形を模索し、メリハリを持った支援を行っていきたい。

3. 人材育成/支援力の向上

事業所・職員の役割として、利用者一人ひとりが『その人らしく、より輝いていけるよう』支援する事が根幹であり、日中の様々な活動はそのために存在する事を会議など様々な場面で共有、確認を行ってきた。日々の支援については、朝夕の反省会や未参加者のための引継ぎファイル、グループメールの発信を頻繁に行い情報共有に努めたが、

深掘りが足りず、解決に向けた取り組みは不十分だった。また、支援ソフト『ほのぼの』の導入により、他事業所との共有も簡単になったが、機能を十分使いこなせているとは言い難い。研修については、中止が相次ぎ「いつも」の研修に参加する機会が激減した。しかし、後半になりオンラインによる研修が確立されてくると、今まで参加が難しかった遠方での研修にも参加する機会を得ることが出来た。半面、オンライン研修は手軽である一方、現地参加の緊張感がないため、より高い意識をもって研修に臨む必要性を感じた。次年度以降の課題としたい。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった					

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった 年間延べ人数： 0人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/17	防災学習（マスクの正しい着用方法）	11/20	防災訓練（地震想定）
5/15	防災学習（正しい手の洗い方）	12/18	防災訓練（火災想定）
7/17	防災訓練（地震想定）	1/15	防災学習（地震の際の危険箇所）
10/16	防災訓練（地震想定）	2/19	防災訓練（地震想定）
		3/20	総合防災訓練 引き取り訓練 災害シミュレーション

防災委員会活動	
5/21	今年度年間計画・防災倉庫の確認
8/20	独居者の個別避難計画・有事の際の事業所間連携 非常災害対策計画（BCP）の更新
11/19	利用者、職員の住所マップの作成 備蓄品リストの更新、感染症リスクの中の総合防災訓練について
2/11	緊急時確認票、個人カードの更新 総合防災訓練、法人全体研修について 災害シミュレーションの作成 来年度の課題の洗い出し

《 職員研修》

月	内容	対象者
4月	OJT サポート研修	生活支援員
5月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	生活支援員
6月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 第1回法人全体研修（障害者作業の疑似体験、中長期計画）	生活支援員 法人全体
7月	愛知県知的障害者福祉協会野沢ゼミ（全6回・オンライン） 他事業所実践研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	主任 生活支援員 生活支援員
8月	令和2年度初任者研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） OJT サポート研修	生活支援員 生活支援員 生活支援員
9月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 第2回法人全体研修（にやりほっと、アンガーログ・人事評価）	生活支援員 法人全体
10月	口腔ケア研修会 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	看護師 生活支援員
11月	スーパービジョン研修（オンライン） Instagram ビジネス活用講座 オンラインスキルのいろは研修（オンライン） OJT サポート研修	精神保健福祉士 生活支援員 生活支援員 生活支援員
12月	第3回法人全体研修（にやりほっと、アンガーログ・人事評価） レクリエーション構築研修（オンライン） 中長期計画策定セミナー（オンライン）	法人全体 生活支援員 管理者
1月	人材育成のためのコミュニケーション研修（オンライン） 第4回ロジカルシンキング勉強会	管理者・主任 法人職員
2月	防災セミナー（南海トラフ巨大地震・オンライン） 個別支援計画作成および運用に関する研修会（オンライン） OJT サポート研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	主任 中堅職員 生活支援員 生活支援員
3月	第4回法人全体研修（防災・人事評価） 社会福祉法人地域公益取組懇談会（オンライン） 東海地区、愛知県知的障害関係施設職員研究大会（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	法人全体 生活支援員 生活支援員 生活支援員

《 生産活動 売上金額 》

月	奏+といろ 売上金額 (円)	楽2 売上金額 (円)	計 (円)
4	274,180	115,795	389,975
5	273,609	95,495	369,104
6	400,575	284,955	685,530
7	309,280	175,521	484,801
8	260,865	330,388	591,253
9	357,552	165,776	523,328
10	308,512	54,542	363,054
11	251,215	114,865	366,080
12	368,455	182,580	551,035
1	233,235	196,270	429,505
2	316,415	352,645	669,060
3	321,043	88,355	409,398
計	3,674,936	2,157,187	5,832,123

《原材料費率=原材料費／売上金額》

原材料 費合計	921,734	252,379	1,174,113
比率	25.1%	11.7%	20.1%

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
男性	2	7	8	1				18
女性	3	5	4					12
合計	5	12	12	1				30

※平均障害支援区分： 4.7

【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	4	5	0	4	4	1	18
女性	1	2	0	1	8	0	12
合計	5	7	0	5	12	1	30

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	31歳8ヶ月	18歳8ヶ月	56歳0ヶ月
女性	38歳8ヶ月	18歳10ヶ月	49歳11ヶ月